

若い学生達の海外派遣に意義があるのは言うまでもありませんが、目的がはっきりしている社会人、特に、若い世代を教育する教師や、高齢化社会にあつて注目を受けている医療業務分野、世界の将来を担うハイテクやエコ関係分野の民間企業や政府機関における人材の研修、退職後に地域社会発展のための各種のプロジェクトに携わっているボランティアや外国人受け入れなどの分野に関わりのある人達の研修プログラムの意義にも注目すべきです。更に、単なる言語学習目的ではなく、三次市に存在する素晴らしい神楽のような地域伝統芸術の継承、紹介などを目的で渡米できるようなプログラムがあれば、国際交流の草の根活動になると共に、両国間の若者達の人生に影響を与え、語学力上達にも繋がると考えられます。言語力、特に会話力は、聞き取りや読解練習、或いは文法学習ではなく、プロダクション・スキルと呼ばれる自分が言いたいことが話せるようになるための『訓練』に力を入れなければ上達

は望めません。そして、この『言いたいこと』がある人間こそが外国語会話力の早期上達を遂げているのも事実です。

一人では、或いは一集団では達成できないスケールの海外派遣プログラムでも、種々の教育事業団が協力すれば、新しい企画の海外派遣プログラムを立ち上げることも可能で、又、そういったコラボレーションが必要になってきていると思います。

今回の3週間の夏季言語研修プログラムは国際ロータリー第2710地区関係者の皆様、三次市の地域のボランティアの皆様のご支援で行われていますが、これを機に今後、三次市と米国空軍士官学校との間でより深い国際交流ができることを望んでやみません。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

財) ロータリー米山記念奨学会ニュース

★ ハイライト よね や ま 135号 ★ 2011年6月10日発行

：：今月のトピックス：：

1. 寄付金速報 — 送金のお忘れはありませんか? —
2. 理事会・評議員会開催報告
3. 博士号取得状況 — 申請お待ちしております —
4. 韓国の学友から100万円の義援金

<お知らせ>

- ・米山学友のチャリティーコンサート
- ・2011年3月終了奨学生のカウンセラーにアンケート実施中!

《今月のピックアップ記事》

4. 韓国の学友から100万円の義援金

韓国の日系企業に勤務する米山学友の姜永鉄(カン・ヨンチョル)さん(1995-96/鎌倉中央RC)が、東日本大震災の被災者のためにと、12,690,000ウォン(日本円換算後、約100万円)を世話クラブへ送金してくださっていたことがわかりました。

姜さんは奨学期間を終えて15年以上経っており、カウンセラーや世話クラブとも長らく疎遠になっていましたが、「世話クラブのことを忘れたことはありません。いつか恩返しを…と考えていました」と、言います。3月11日以降、韓国国内で連日流れる震災のニュースに涙を流しながら、何か自分たちにできることはないかと奥様と相談し、世話クラブへ寄付を申し出てくれました。なお、このお金は世話クラブ経由で第2780地区内の義援金受付口座へ送金されました。

\*\*\* 重要なお知らせ \*\*\*

普通寄付金・特別寄付金ともに、6月30日(木)当会口座入金分までが今年度実績となります。入金7月1日(金)以降は全て来年度ご寄付分となりますので、ご注意ください。

2011年 6月16日(木)

第 44号

本日のプログラム	2010-11年度理事役員挨拶
次回例会	6月23日(木) 12:30~ 三次商工会議所
次回プログラム予告	前田ガバナー卓話

### 例会記録・・・6月9日

- 点 鐘・・・小田大治 副会長
- ソング・・・「君が代」「それでこそロータリー」
- ゲスト・・・USエアフォースアカデミー 講師 ゆみこ グアハルド様



### 会 長 挨拶 ■小田 大治 副会長



改めまして、皆さんこんにちは。  
会長の代理でお話をさせて頂く機会を与えて頂くのは今日で4回目です。  
本日のゲストでありますユミコ先生に関連致しますが、現在我が家には USエアフォースアカデミーの学生、しかも女性が1名ホームステイ致しております。  
流暢な関西弁で、楽しく日々を過ごしております。彼らは午前中、三次高校と県立大学で授業に参加し、午後は三次を中心とした文化芸術活動に参加されています。ただし、英語の授業には参加されておりません…。たとえば、我がクラブの会員でもあります藤原さん。藤原農園にて、田植えを経験されました。そのあと泥落として君田温泉にて汗をおとし、天野会員の計らいで三次太鼓を見学し、長身イケ面の太鼓奏者に一目惚れ、このまま日本に残って彼のお嫁さんに成りたいぐらいと言っていました。  
後で調べてみたら 彼は最近結婚したばかりだそうで とても残念がる事だと思います。  
また、先日の事ですが石田会員のお世話でCSTV日本人の私は洋画を観て、国の彼女は2階で邦画「仁」を観ておりました。ちなみに今話題に成っている番組で米国でもネットで観ているそうです。  
菅原会員のところには、ロバートという物理学者を目指している学生です。帰国後は南米ペルーに出向き9月には日本の防衛大学に留学する予定だそうで、想像を超えたスケジュールで、勉強している姿に感銘を受けましたものの単位の話で、たとえばパスカル ニュートンなど人名が単位に採用されています。優秀な彼の事だから、将来1ロバートといわれるようなことになる話を居酒屋でippaiやりながらの話です。  
畳に座って食事を取ることがとても苦痛を伴い、菅原会員が座布団をおって座ることをすすめ長い足と テーブルの調整も、この座布団を何枚折って重ねるかが結局単位に成りました。ちなみに彼は3ロバートということに成りました。  
頭がいいからこの様な話が通じ理解が得られる事と思います。彼らが優秀で流暢な日本語ができ 菅原家族の堪能な英語力を以て楽しい時が過ごせました。  
まずは語学力です。中学高校大学と10年勉強しても、話ができないのは日本英語教育がおかしいからだという事で本日の代理の挨拶と致します。

**幹事報告** ■菅原 暢之 幹事

■本日18:30より、ふくべで新旧理事役員会を開催します。また18:00より次年度利意役員会を開催します。

**出席報告** ■明山 晃映 委員長

5月26日の出席報告					本日(6月9日)の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
休会					44	28	5	12

**委員会報告**

■天野芳会員  
次年度会員組織委員会を例会後サロンにて行います。

**SAA報告** ■属 吉行 SAA

スマイル1,000円

増田 茂典 連続出席11年早いものです。今後もがんばって続けたいと思います。ありがとうございました。

**プログラム**

**ゲスト卓話**



グローバリゼーションの中での海外派遣プログラム  
グアハルド由美子

コロラド州、コロラド・スプリングス市の北西、ロッキー山脈の麓に米国空軍士官学校がございます。

全寮制の4年制大学で、約4000名の学生達が勉学と共に軍隊訓練に励んでおります。将来の空軍、及び、合衆国連邦政府の高官職に就くであろうという士官候補生を相手に日本語教師をして参りました。今年の6月30日で15年を終えますが、空軍士官学校での教職の前はアリゾナ州の州立アリゾナ大学で日本語講師をしておりました。

毎年、空軍士官学校から日本への言語文化研修は3回行われており、11月末のサンクスギビングと3月末の春休みを利用した各10日間、そして6月の夏休みを利用した3週間で、今回は39名の学生達を日本に連れて来ております。18名を福岡、16名を和歌山、5名を三次市に連れて参りましたが、三次市におけるプログラムは、今年初めての試みで、インターンシップ・プログラムという日本語教室での学習とは全く異なる企画で進めております。広島県立三次高等学校と県立広島大学庄原キャンパスのご協力で開設した新規プログラムでございます。

所謂『現場教師』で教室での日本語教育が専門職ですが、30余年前の留学によって人生観が変わった故、将来を担う若者達、特に空軍士官として今後の日米間の鍵を握る職務に就くであろうという士官候補生のために、単なる言語文化研修ではなく、情操教育を目的とした海外研修派遣は不可欠だと考えております。

私が初めて留学目的で日本を飛び出した

1978年と今2011年では言語教育の方法も、又、留学に対する考え方も大きく変わっています。勿論、しっかりとした目的意識が無ければ、いつの時代でも何事も成就しないことは変わっていませんが、昨今は余程しっかりと準備教育をした上での派遣でなければ、或いは、はっきりとした目的を持ったプログラムでない限り、学習者に目新しい発見はありません。漠然とした文化学習や単語力上達といったプログラムでは学習者のモチベーションも得られず、成果もないと考えられます。今や、インターネットを使えば、諸外国の生活環境、その他をリアルタイムで見ることができ、一般的な単語や決まり文句はiPhoneやiPad、その他のスマートフォンに表示して現地の人々に見せるだけでも、ある意味で『コミュニケーション』ができ、買い物をしたり食事をしたり目的地に到着したりできる時代です。所謂『条件反射』的な会話表現の学習に固執していた言語教育から脱皮し、本当の意味での外国文化の理解や外国人とのコミュニケーションについて考え直す時期が来ています。

日本人とアメリカ人、或いは日本文化とアメリカ文化の差異や類似点にばかり注目したような文化比較の授業内容はあまりにもシンプルな文化の一般化論にすぎず、国際人養成教育に害になっても益にはなりません。人間一人一人の顔が違うように、文化も地域や世代によって異なり、同時に、昨今のグローバリゼーションの中では以前より他文化の間で多くの接点も出てきています。

海外派遣プログラムの成功の鍵は、学習者が各々自分が学びたいことが学べて、自分の専攻や専門知識などを広める、或いは深めることができるような環境が与えられていることだと思います。